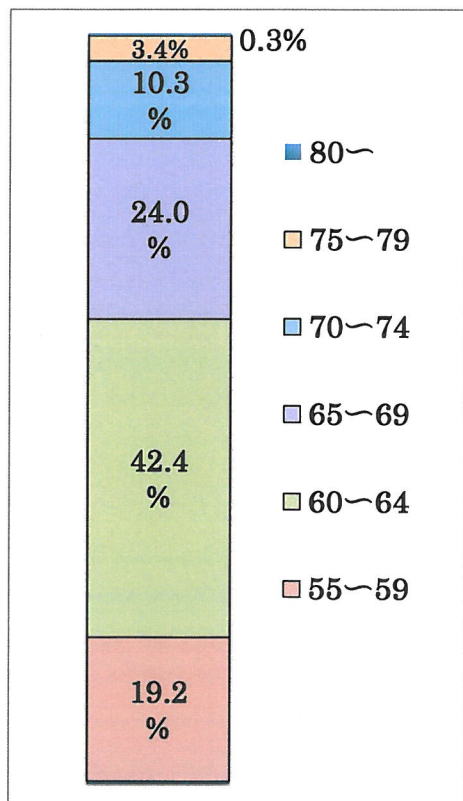
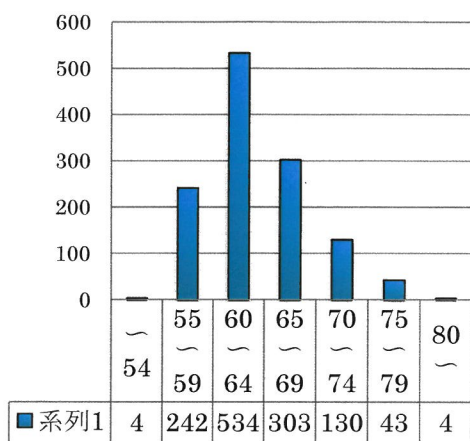


2012年度の特掃は1260人で出発。

就労者数は1日196人+ガードマン26人

大阪市は4~7月の暫定予算

2012年度特掃年齢構成



今年度の特掃は、1日あたりの就労者数が、輪番196人+ガードマン26人と、3年前に雇用創出基金が始まるまでの人数にもどった。登録者数は1260人で、去年の4月初めより117人少ない。月8がなくなつたので、特掃がまわってくる回数はかなり少なくなる。

大阪市の特掃事業の分(地域内、区、草刈、保育)は、市長がかわつてほとんどすべての事業が4月から7月までの暫定予算になつたため、特掃も4月から7月までの暫定予算になつてしまった。

特掃は、野宿やシェルター生活、不安定なドヤ生活をいられる釜ヶ崎の高齢労働者が、働いて命をつなぐために欠かせない事業だから、大阪市内には8月以降も最低今の形と人数で続けるよう要望したい。

また、登録者の高齢化はますます進んでいる。今年度の平均年齢は64歳で、65歳以上が38%になつているが、70歳以上は14%である。新しい対策も必要だ。

たいちょう へんか しどういん つた
体調の変化があれば、すぐに指導員に伝えてください。

さいいじょう しんぞうしっかん も ひと ようちゅうい
70歳以上と心臓疾患を持つ人はとくに要注意！

さんがつげじゅん だいぜんはん りんばんしや とくそうじむしよ
3月下旬、60代前半の輪番者が、特掃事務所でひとりの指導員に「救急車をよんでほしい」と胸をおさえながら言った。まだ特掃の受付がセンターではじまる前だった。もともと心臓と胆のうに病気があり、特掃にくるときはいつもセンターの受付前にとくそうじむしよ きくすり ふくよう 特掃事務所に来て薬を服用していたようだ。その日は、薬を服用する前に心臓が苦しくなってしまった。事務所から職員が同乗して救急搬送で入院。胆管がつま

つて黄疸がでており、それが心臓を圧迫したのではないかと医者は言っていた。昨年9月の健康診断は受けていたが、C判定ではなかった。

がつ にち きゅうばん しのはらこうぞう
3月18日には旧番1324の篠原廣三さん(75歳)がガンのため入院先で、19日には旧番462の高田昇さん(78歳)が心不全と頸椎骨折で自宅でなくなった。篠原さんは、昨年に産業医が現場巡回に行ったときに顔色が悪いため声をかけ、ガンの疑いが見えたために治療をすすめた。2月におきた労災事故は、78歳の輪番者が、地面に生えていたツルに足をとられて倒れたとき、手をつけずに肩から落ちて脱臼したというものだった。

さいいじょう こうれい さいせいかいけんしん
70歳以上の高齢と、済生会健診だけではわからない心臓疾患は要注意だ。季節の変わりめ、体調の変化があればすぐに指導員に知らせてほしい。輪番日以外であれば、すぐに自分で救急車をよぶか、事務所に相談してほしい。

しゅうろうじょう ちゅうい
[就労上の注意]

- さけ ばあい しゅうろう とちゅういんしゅ ば かえ
1、酒のにおいがする場合は、就労できません。途中飲酒はその場で帰ってもらいます。
- けつあつ たか たいちょう わる じょうたい ばあい さぎょう で びょういん い
2、血圧がひじょうに高い、体調が悪い状態の場合は、作業に出ずに病院に行ってもらうことがあります。
- きようほけん・けんこうほけん てちよう ひと うけつけじ ていしゅつ
3、雇用保険・健康保険の手帳がある人は、受付時に提出してください。